

G-SYSTEM ヴァージョン 4.0 補足ガイド

この補足ガイドは、G-System ソフトウェア・ヴァージョン 4.0 の追加機能を解説します。

最初に、G-System のソフトウェアが正しくアップデートされていることをご確認ください。

- <http://www.tcelectronic.com/g-systemsoftware> から、デスクトップ等のファイルを見失いにくい場所にソフトウェア・アップデーターをダウンロードします。
- G-System とコンピュータを USB 接続します。
- G-System の電源を投入し、ソフトウェア・アップデーターを起動します。
- ソフトウェアのアップロード中には、G-System の電源は絶対に落とさないでください。

Vintage Univibe - ヴィンテージ・ユニヴァイブ (MOD ブロック)

Vintage Univibe はクラシックなロータリー・スピーカーのエフェクトを再現します。フェーズ感の強い厚みのあるコーラスから密度の高いビブラートまで、幅広い効果が得られます。スピードの設定が2つ用意されており、ロータリー・スピーカー同様にスピードを切り替える際の加速／減速による独特な効果を得られます。効果をご確認いただくわかる通り、Univibe はレズリーのコピーではなく、Univibe ならではの独自のキャラクターを持っています。

Speed 1/2 - スピード 1/2

設定レンジ：150 Hz ～ 10 kHz

外部コントローラーからここで指定した2つの Speed 設定を切り替えることで「ギア変更」を行ないます。設定値の差が大きい程、切り替えの際のエフェクトが派手になります。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ～ 100 %

ピッチ変調の深さを調節します。

Tempo 1/2 - テンポ 1/2

設定レンジ：Ignored (無視) ／ 1 ～ 1/32T

1 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。Ignored の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。



GLOBAL メニューの Tap Master パラメーターで、プリセットの変更の際にグローバル・テンポと Speed パラメーターのいずれを適用するかを指定できます。

Attack - アタック

設定レンジ：0.05 ～ 5 sec

低速から高速への切り替わりに要する時間を指定します。Speed 1 と Speed 2 のどちらを「低速」「高速」にしても構いません。

Release - リリース

設定レンジ：0.05 ～ 5 sec

Attack パラメーターの逆で、高速から低速への切り替わりに要する時間を指定します。

Select - セレクト (選択)

設定レンジ：Speed 1 ／ Speed 2

デフォルトで使用する Speed パラメーターを指定します。このパラメーターにモディファイアーを指定することで、MIDI フットコントローラーの MIDI CC 情報等で二つのスピード設定を切り替えられます。

BpMode - バイパス・モード

設定レンジ：Direct (ダイレクト) ／ Delayed (ディレイ)

スピード 1/2 間の切り替え、またはエフェクトをバイパスした場合のエフェクトの反応を指定します。Direct を選択すると、ユニヴァイブのエフェクトは瞬時に切れます。Delayed を選択すると、Release パラメーターの設定に応じた速度で減速します。

PhaseReverse - フェーズ・リバーズ (位相反転)

設定レンジ：Off ／ On

位相を 180° 反転させることでより濃厚なエフェクトを得られます。ぜひお試しください。

UNIVIBE - ユニヴァイブ (MOD ブロック)

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ～ 100 %

このエフェクト・ブロックの、ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - アウトプット・レベル

設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Modern Univibe - モダン・ユニヴァイブ

モダン・ユニヴァイブは、ヴィンテージ版と同じパラメーター構成ながらも、質感が大きく異なります。回転している感覚は若干薄いながらも、フェーズ感の強い、より派手な効果が得られます。

Doubler - ダブラー (PITCH ブロック)

ダブラー・エフェクトは、2本のギターで同じリフを重ねる効果をシミュレートします。手動でギターをダブリングする場合、同じ音符を同じタイミングで演奏しても、2本のギターの間には必ず若干のピッチとタイミングのずれが生じます。同じパートを重ねた場合に音の厚みが増す効果はこのずれに起因します。まずはディレイ・タイムを変えてみて、ステレオのセットアップを使用している場合はSideパラメーターをお試しください。ピッチに若干の違いを与えることで、二本のギターが同時に鳴っている感覚にさらに近づけることができます。この音程の差異は、Pitchパラメーターで調節します。

Delay - ディレイ

設定レンジ：3 ms ～ 60 ms

ダブラー・エフェクトの要となるパラメーターで、Sideパラメーターで選択したチャンネルにディレイを与えます。適切な設定値はリスニング・ポジションやキャビネットの配置によって大きく異なります。PA側でキャビネットをマイキングしている場合は、お求めの効果をPA側で生かせるように、サウンド・エンジニアにご相談ください。ほんの数msのディレイでも、ワイドなダブリング効果が得られます。ディレイが長過ぎると、サウンドがぼやけることがあります。

Pitch - ピッチ

設定レンジ：-20 ～ +20

エフェクト成分のピッチを調節します。ピッチを若干ずらすことで、二本目のギターが同じパートを重ねている効果をよりリアルにシミュレートできます。

Side - サイド

設定レンジ：L (Left = レフト) ～ R (Right = ライト)

ディレイを施すチャンネルを選択します。

OutLev - アウトプット・レベル

設定レンジ：-100 dB ～ 0 dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトのオン／オフの状態を示します。

KILLDRY - キルドライ (UTILITY メニュー)

Killdry - キルドライ (UTILITY メニュー)

設定レンジ：Off / On

G-System をパラレルのセットアップ（またはパラレル・ループ）で使用する場合には、キルドライ機能は重宝する機能となるでしょう。Kill Dry をオンにすると、原音が G-System から出力されなくなります。

パラレル・セットアップにおける Kill Dry 機能の留意点

まず、

- ルーティングは Parallel（パラレル）でを使用することをお勧めいたします。
- Kill Dry パラメーターをオンにすると、アウトプットからクリーンの信号が出力されなくなり、全アルゴリズムの Mix パラメーターが「Wet」に変わります。

別の留意点として、パラレル・ループにおける信号の流れはミキサー内のルーティングに類似していることがあげられます。信号は分割され、片方はそのまま出力に、もう片方はエフェクト・プロセッサを通過します。すなわち、この「もう片方」の信号は G-System で処理され、後に原音と混ぜることとなる訳です。そのため、パラレル・セットアップでは、全てのエフェクトの利点を享受できなくなります。トレモロやパンナーなどのレベルを扱うエフェクトは原音と混ぜてしまうと効果が損なわれますし、コーラス／フランジャー／フェーザー／ビブラート、そして PITCH ブロックなども影響を受けてしまいます。

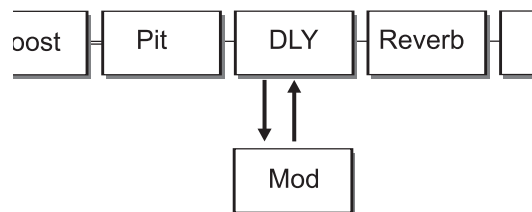
SERIAL 2 - シリアル 2 ルーティング

Serial 2 - シリアル（直列）2 ルーティング

Serial 2 は Serial のバリエーションで、ディレイの反復成分にのみモジュレーションがかかります。



Serial 2 の利点として、ロング・ディレイを使用する場合に、原音が濁ることなく極端なモジュレーション・エフェクトを施すことが可能となります。



tc electronic®